

令和7年度 伊達市戦没者追悼式



10月4日㊦、伊達市戦没者追悼式が行われ、戦没者遺族など66人が参列しました。式では、戦争で失われた2876人の尊い人々の御霊に対して黙禱を捧げ、須田市長が哀悼の意を表しました。

参列した市内中学校6校の代表生徒は、遺族らによる「追悼の辞」を真摯に受け止め、参列者同様に黙禱と献花を行いました。生徒たちにとって、戦争の悲慘さと平和の尊さについて改めて考える場となり、その想いを語り継いでいくことの重要性を理解しました。

戦後八十年の思い

今の生活が『当たり前』ではないから

一人一人が「戦争をさせてはならない」という意識を持ってほしい



80年続いた平和により、戦争の恐ろしさを忘れている人や知らない人が増えてきました。しかし、一度戦争が始まれば、女性も子どもも関係なく命を落とします。絶対にそんなことがあってはなりません。世界では現在も戦争や領域争いが絶えません。今を生きる若い人たちには、戦争が存在することを認識し、勉強し、そして、その体験や苦労話を後世に伝えていってほしいと思います。

“知る”ことの大切さ

戦争の悲慘さをしっかりと伝えていくためには、まず自分が戦争のことを知る必要があります。絶対に戦争をしないために、命の大切さを学ぶ機会がもっと増えていけば良いと思います。



想いを未来へと繋ぐ

ご遺族のお話を聞き、戦争で日本のために戦った人たちに敬意を持ちたいと思いました。今後も戦争をさせないために、戦争の悲慘さをしっかりと伝えていきたいと思っています。

